

## 小泉明郎 | Meiro KOIZUMI

1976 群馬県生まれ  
横浜市在住

1995-1999 国際基督教大学教養学部卒業(教養学士取得)  
1999-2002 ロンドン芸術大学チェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン卒業(美術学士号)  
2005-2006 ライクスアカデミー、アムステルダム

### 個展

- 2025 「Theaters of Life」デボン美術館、ティルブルフ、オランダ  
2024 「祭壇」無人島プロダクション、東京  
2023 「GOOD MACHINE BAD MACHINE」ペイカリー、アネット・ゲリンク・ギャラリー、アムステルダム、オランダ  
2022 「Erased Landscape」ペイカリー、アネット・ゲリンク・ギャラリー、アムステルダム、オランダ  
2021 「自治区 2021 分断の時代に vol.1 小泉明郎 縛られたプロメテウス」金沢21世紀美術館、石川  
「縛られたプロメテウス」山口情報芸術センター[YCAM]、山口  
2019 「Dreamscapegoatfuck」無人島プロダクション、東京  
「FOG」アネット・ゲリンク・ギャラリー、アムステルダム、オランダ  
「私たちは未来の死者を弔う」北千住BUoY 2Fギャラリー、東京  
「Battlelands」ミネアポリス美術館、ミネアポリス、アメリカ  
「Profundidad de campo」マタデロ・マドリッド、マドリッド、スペイン  
2018 「Battlelands」ホワイトレインボー、ロンドン、イギリス  
「Battlelands」ペレス美術館、マイアミ、アメリカ  
「Le nouveau souffle juste après la tempête」ヴァル＝ド＝マルヌ現代美術館、ヴァル＝ド＝マルヌ、フランス  
2017 「Rite for a Dream II」アネット・ゲリンク・ギャラリー、アムステルダム、オランダ  
「帝国は今日も歌う」ヴァカント、東京  
2016 「帝国は今日も歌う」デ・ハレン・ハールレム、ハールレム、オランダ  
「コンフィッションズ」京都芸術センター、京都  
「空気」無人島プロダクション、東京  
「In Between night and sleepwalkers」アネット・ゲリンク・ギャラリー、アムステルダム、オランダ  
2015 「Portrait of a Failed Silence」ムゼオ・ウニベルシタリオ・アルテ・コンテンポラネオ、メキシコシティ、メキシコ  
「捕われた声は静寂の夢を見る」アーツ前橋、群馬  
2014 「卓上の空論」カディスト芸術財団、パリ、フランス  
「小泉明郎展」テストサイト、オースティン、アメリカ  
「Double Projection」アネット・ゲリンク・ギャラリー、アムステルダム、オランダ  
2013 「BMW テート・ライブ：パフォーマンス・ルーム - 小泉明郎」テート・モダン、ロンドン、イギリス  
「プロジェクト・シリーズ 99: 小泉明郎」ニューヨーク近代美術館、ニューヨーク、アメリカ  
2012 「美しい国の物語」カハ・デ・ブルゴス・アートセンタ (CAB)、ブルゴス、スペイン  
「Defect in Vision」アネット・ゲリンク・ギャラリー、アムステルダム、オランダ  
「Human Opera」サン・アート、ホーチミン、ベトナム  
2011 「傷ついた英雄、美しい午後」アートスペース、シドニー、オーストラリア  
2010 「Total Ecstasy」アネット・ゲリンク・ギャラリー、アムステルダム、オランダ  
「至上の愛」ギャラリーRAKU(京都造形大学)、京都  
「痕跡」クレムズ、ベルリン、ドイツ  
2009 「The Corner of Bitter and Sweet」オープンサテライト、ベルビュー、アメリカ  
「僕の声はきっとあなたに届いているー10年間の軌跡2000-2009」ヘドリー・ギャラリー、シアトル、アメリカ  
「MAMプロジェクト009: 小泉明郎」森美術館、東京  
2008 「アレックス・ヒュバード & 小泉明郎」ニコール・クラッグスブルン・ギャラリー、ニューヨーク、アメリカ  
2007 「XXX: トリロジー」ディックスミス・ギャラリー、ロンドン、イギリス  
2006 「小泉明郎展」アネット・ゲリンク・ギャラリー、アムステルダム、オランダ

主なグループ展

- 2025 「MOMATコレクション」東京国立近代美術館、東京  
「Disruptive Landscapes: Contemporary Art from Japan」クライストチャーチ アート ギャラリー テ プナ オ ワイウエ  
トウ、クライストチャーチ、ニュージーランド
- 2024 「イノヴァアートビエンナーレ」イノヴァ美術館、廊坊(ランファン)市、中国  
「Fotograf Festival #14 Make Voices Be Heard: Chapter Four」MEETFACTORY Gallery、プラハ、チェコ  
「ARTBAY Tokyo Art Festival」BMW GROUP Tokyo Bay、東京  
「Engawa」モダンアートセンター (CAM)、リスボン、ポルトガル  
「縛られたプロメテウス」カナル劇場、マドリッド、スペイン
- 2023 「Voice Against Reason」マカン美術館、ジャカルタ、インドネシア  
「As Though We Hid the Sea of Stories」HKW(Haus der Kulturen der Welt)、ベルリン、ドイツ  
「MEET YOUR ART FESTIVAL 2023」天王洲運河一帯、東京  
「ザ・ニューサバイバース」三影堂撮影芸術中心、北京、中国  
「世界演劇祭2023」ムーゾントウルム劇場、フランクフルト応用美術館 ほか、フランクフルト、オッフエンバッハ、ドイツ  
「第14回 光州ビエンナーレ soft and weak like water」光州ビエンナーレ展示館、光州、韓国  
「シアターコモンズ'23」SHIBURA HOUSE 5F、東京  
「タグコレ 現代アートはわからんね」角川武蔵野ミュージアム、埼玉
- 2022 「JAPAN.BODY\_PERFORM\_LIVE」PAC Padiglione d'Arte Contemporanea、ミラノ、イタリア  
「地球がまわる音を聴く:パンデミック以降のウェルビーイング」森美術館、東京  
「Dark Mofu」Black Temple Gallery、タスマニア、オーストラリア  
「アートの新時代 2022」高島屋大阪店、大阪  
「Post Nature」蔚山美術館、蔚山、韓国
- 2021 「「新しい成長」の提起 ポストコロナ社会を創造するアーツプロジェクト」東京藝術大学大学美術館、東京  
「文化庁メディア芸術祭」パナソニックセンター東京 Aスタジオ、日本科学未来館、東京  
「TOKYO: ART & PHOTOGRAPHY」Ashmolean Museum、オックスフォード、イギリス  
(オンライン展覧会)「距離をめぐる11の物語:日本の現代美術」国際交流基金  
「Artes Mundi 9」国立カーディフ博物館、カーディフ、イギリス  
「シアターコモンズ '21」SHIBAURA HOUSE 5F、東京  
「SOUTH SOUTH TOKYO」無人島プロダクション、東京
- 2020 「王の二つの身体」デカメロン、東京  
「2020 台湾インターナショナル・ビデオアート・エキシビション アニマ」台湾コンテンポラリーカルチャーラボ、台北、台湾  
「メルセデス・ベンツ アート・スコープ2018-2020」原美術館、東京  
「ARTEFACT 2020 : ALONE TOGETHER」STUK Arts Center vzw、ルーヴェン、ベルギー  
「Measure Your Existence」ルービン美術館、ニューヨーク、アメリカ
- 2019 「Time Cubism」光州市立美術館、光州、韓国  
「Long March Project: The Deficit Faction」ロングマーチスペース、北京、中国  
「百代の過客」ART BASE百島、広島  
「あいちトリエンナーレ2019 情の時代」愛知県美術館/愛知芸術文化センター、愛知  
「セレブレーション -日本ポーランド現代美術展-」京都芸術センター、京都  
「百年の編み手たち -流動する日本の近現代美術-」東京都現代美術館、東京  
「移植」無人島プロダクション、東京  
「A Tale of Hidden Histories」アイフィルムミュージアム、アムステルダム、オランダ  
「第14回シャルジャビエンナーレ」シャルジャ美術館、シャルジャ、アラブ首長国連邦  
「サクリフェイス」スクリーニング、アブダビ・アート、アブダビ、アラブ首長国連邦
- 2018 「第9回アジアパシフィックトリエンナーレ」クイーンズランド州立近代美術館、ブリスベン、オーストラリア  
「第12回上海ビエンナーレ」上海当代芸術博物館、上海、中国  
「アジアフォーカス」国立現代美術館、ソウル、韓国  
「開館40周年記念展 トラベラー:まだ見ぬ地を踏むために」国立国際美術館、大阪  
「コレクション展 ビルディング・ロマンス-盲目と洞察」豊田市美術館、愛知  
「Le nouveau souffle juste après la tempête」ヴァル=ド=マルヌ現代美術館(MAC VAL)、ヴァル=ド=マルヌ、フランス

- 2017 「第6回 アジアンアートビエンナーレ」国立台湾美術館、台中、台湾  
 「歴史を体で書く」国立現代美術館、果川市、韓国  
 「Optional Art Activity / Letters」タケニナガワ、東京  
 「Imaginary Asia」ナムジュン・パイク・アートセンター、龍仁市、韓国  
 「Faits alternatifs」FRAC ポワトゥー＝シャラント、アングレーム、フランス  
 「前橋の美術2017～多様な美との対話～」アーツ前橋、群馬
- 2016 「蜘蛛の糸」豊田市美術館、愛知  
 「The Grand Balcony」モントリオール・ビエンナーレ、モントリオール、カナダ  
 「劇場は美しい午後の夢を見る Part-2」マニフェスタ・オフィス、アムステルダム、オランダ  
 「劇場は美しい午後の夢を見る Part-1」アネット・ゲリンク・ギャラリー、アムステルダム、オランダ  
 「The Time is Out of Joint」シャルジャ・ビエンナーレ、アラブ首長国連邦  
 「EDITIONS++」無人島プロダクション、東京  
 「MOTアニュアル2016 キセイノセイキ」東京都現代美術館、東京  
 「村上隆のスーパーフラット・コレクション — 蕭白、魯山人からキーファーまで—」横浜美術館、横浜
- 2015 「Familiar Otherness: Art Across Northeast Asia」パオ・ギャラリー、香港アーツセンター、香港  
 「The Real Thing」デジアート・ギャラリー、国立台湾美術館、台北、台湾  
 「ジャカルタビエンナーレ2015- Neither Forward nor Back」ジャカルタ、インドネシア  
 「Don't Follow the Wind」東京電力福島第一原子力発電所事故による帰還困難区域内、福島、日本  
 「境界 高山明+小泉明郎」銀座メゾンエルメス フォーラム、東京  
 「Beyond Hiroshima: The Return of the Repressed」ゲニア・シュライバー・ユニバーシティギャラリー、テルアビブ大学、テルアビブ、イスラエル  
 「La chose/The Thing」デルメ・シナゴグ現代アートセンター、デルメ、フランス  
 「Chercher le garçon」ヴァル＝ド＝マルヌ現代美術館、ヴァル＝ド＝マルヌ、フランス  
 「微妙な三角関係」ソウル市美術館、ソウル、韓国  
 「Invisible Energy」セント・ポール・ストリート・ギャラリー、オークランド、ニュージーランド
- 2014 「Up Close and Personal」デ・ハレン・ハールレム、ハールレム、オランダ  
 「Emoties」ヘルモント市美術館、ヘルモント、オランダ  
 「イマジニアリング」岡山アート・プロジェクト、岡山  
 「Amsterdam Drawing Extended」アネット・ゲリンク・ギャラリー、アムステルダム、オランダ  
 「すすきの夜のトリエンナーレ」札幌  
 「Ten Million Rooms of Yearning」パラサイト芸術空間、香港、中国  
 「深圳ビエンナーレ」深圳、中国  
 「Affekte (Affects)」クンストパレス、エアランゲン、ドイツ  
 「幸福はぼくを見つけてくれるかな？」東京オペラシティアートギャラリー、東京  
 「MOTコレクション20周年記念特別企画—クロニクル1995—」東京都現代美術館、東京
- 2013 「カゼイロノハナ 未来への対話」アーツ前橋、群馬  
 「Now Japan」KAdEクンストハル、アマースフォート、オランダ  
 「If You Will It, It Is Not a Dream」アネット・ゲリンク・ギャラリー、アムステルダム、オランダ  
 「Unknown Forces」Tophane-i Amireギャラリー、イスタンブール、トルコ  
 「日産アートアワード」BankART 1929、横浜  
 「六本木クロッシング」森美術館、東京  
 「Unattained Landscapes」国際交流基金／ベヴィラクア・ラマサ財団、ヴェニス、イタリア  
 「Future Generation Art Prize」パラッツォ・コンタリニ・ポリニャック、ヴェニス、イタリア  
 「Shame」エスペリアル・カハ・マドリッド財団、マドリッド、スペイン  
 「Agenda Santiago」カハ・デ・ブルゴスアートセンター(CAB)、ブルゴス、スペイン  
 「Move on Asia - 新たなアートネットワークに向けて2004-2013」ウェリントン・シティ・ギャラリー、ウェリントン、ニュージーランド  
 「Move on Asia - アジアのビデオアート 2002-2012」ZKM、カールスルーエ、ドイツ
- 2012 「第15回アジアンアートビエンナーレ・バンガラデシュ2012」ダッカ、バンガラデシュ  
 「アブストラと12人の芸術家」大同倉庫、京都  
 「Future Generation Art Prize 2012」ピンチュクアートセンター、キエフ、ウクライナ  
 「第9回上海ビエンナーレ」上海当代芸術博物館、上海、中国  
 「テグ・フォト・ビエンナーレ2012 - Dance on a Thin Line」テグ、韓国

- 「第5回メディアアート国際ビエンナーレ- Experimenta Speak to Me」メルボルン、オーストラリア  
「Re: AIR」アーカス、茨城  
「常識に尻をむけろ。」代官山アートストリート、東京  
「エコ—日本の若手アーティスト展」クンストラウム・クロイツベルグ／ベタニエン、ベルリン、ドイツ  
「Move on Asia 2012」オルタナティブスペース・ループ、ソウル、韓国  
「Identity VIII」日動コンテンポラリーアート、東京  
「Project Liquido」アルムノス47財団、メキシコシティ、メキシコ  
「Emotional Blackmail」キッチンナー・ウォータールー・アート・ギャラリー、キッチンナー、カナダ  
「トーキョー・ストーリー 2011」トーキョーワンダーサイト、東京  
「オムニログ：西への旅」国際交流基金／ラリット・カラ・アカデミー、ニューデリー、インド
- 2011 「Impersonale」ミロ財団、マヨルカ、スペイン  
「第5回ジャカルタ国際ビデオフェスティバル OK Video」ジャカルタ、インドネシア  
「After Humanism」オルタナティブスペース・ループ、ソウル、韓国  
「Emotional Blackmail」サザン・アルバータ・アート・ギャラリー、レスブリッジ、カナダ  
「Art Scope 2009-2011 : Invisible Memories」原美術館、東京  
「Super 8」クリストファー・グライムス・ギャラリー、ロサンゼルス、アメリカ  
「MOTコレクション—サイレントナレーター、それぞれの物語」東京都現代美術館、東京  
「美術館イベント コレクション+風景の裏側」前橋ブラザ元気21別館、群馬
- 2010 「Liverpool Biennial 2010」FACT、リバプール、イギリス  
「Media City Seoul 2010」ソウル市美術館、ソウル、韓国  
「Yellow Gate」広州美術館サングロック館、広州、韓国  
「Last Words 2」4Aアジア現代美術センター、シドニー、オーストラリア  
「第1回あいちトリエンナーレ」愛知
- 2009 「レゾナンス」サントリーミュージアム天保山、大阪  
「日常への一撃」オセイジ・ギャラリー、香港、中国  
「Japan Video Window」ギャラリー・デュープレックス、サラエボ、ボスニア  
「Re: Membering—日本の次世代」オルタナティブスペース・ループ、ソウル、韓国
- 2008 「ビバーク」ヴォクス・ポピュライ・ギャラリー、フィラデルフィア、アメリカ  
「人生の物語」ギャラリーTPW、トロント、カナダ  
「人工的自然」上海当代芸術博物館、上海、中国  
「第3回南京トリエンナーレ—Reflective Asia」南京博物院、南京、中国  
「秘密同盟(B.O.S)」クンストブンカー、ニュルンベルク、ドイツ  
「Asian Hot Shots Berlin」(映画とビデオアートのフェスティバル)ベルリン、ドイツ  
「Persona Non Grata」ワン・イン・ジァザー、ロンドン、イギリス  
「Rehab! ベン・ラルア & ディディエ・バスカル、小泉明郎とクリスチャン・ヤンコウスキー」アムステルダム市立近代美術館プロジェクトスペース・ビューロー(SMBA)、アムステルダム、オランダ  
「埋まらない距離—小泉明郎 X 増本泰斗」CAMPオットーマインツハイムギャラリー、東京
- 2007 「情性の発見」KW14、スヘルトヘンボス、オランダ  
「君がこれに興味を持つか否かの問題ではなく、どちらかという君が文化的創造の新条件下で更に興味深い人間になれるか否かの問題だ」フライ美術館、シアトル、アメリカ  
「Art summer university」テート・モダン、ロンドン、イギリス  
「要するに、激しい格闘」パンチ・ギャラリー、シアトル、アメリカ
- 2006 「戦争と自然」ヴィルジル・ドゥ・ヴォルデル・ギャラリー、ニューヨーク、アメリカ  
「仕事」ファイフハウゼン芸術要塞財団現代美術センター、ファイフハウゼン、オランダ  
「Filmproject」ギャラリー・サイン、フローニンゲン、オランダ  
「αMプロジェクト vol.8: セクシー・ポリティクス」アスク・アートスペースキムラ、東京  
「ヒスコックス芸術賞」アルティ・エト・アミシィティエ、アムステルダム、オランダ
- 2005 「Hotspots」エスル財団コレクション、ウィーン、オーストリア  
「videoDictionary」ラ・カーサ・エンセンディータ、マドリッド、スペイン  
「移転したアイデンティティ: パート1—露出過多」パブリック・スペース・ウィズ・ア・ルーフ、アムステルダム、オランダ
- 2004 「Episode」清州アート・センター・ギャラリー、清州、韓国  
「無根拠／無結論」ガレリア・モリアルティ、マドリッド、スペイン

- 「アウト・ザ・ウィンドウーpaces of Distraction」国際交流基金フォーラム、東京／プロジェクトスペース・ジップ、ソウル、韓国
- 「メディアリーナー日本の現代美術」ゴヴェット・ブリュースター・アート・ギャラリー、ニュープリマス、ニュージーランド
- 「Old Habits Die Hard」ノーウィッチ・ギャラリー、ノーウィッチ、イギリス
- 2003 「Group vs. Show」ディックスミス・ギャラリー、ロンドン、イギリス
- 「お願いだから泣かせないで」エミリー・ツイングー・ギャラリー、ロンドン、イギリス
- 2002 「New Contemporaries 2002」スタティック、リバプール／バービカン・センター、ロンドン、イギリス
- 「そうじゃないから」Mストリート3300番地、ワシントンD.C.、アメリカ
- 2001 「ベックス・フューチャーズ2(学生フィルム・ビデオ賞)」インスティテュート・オブ・コンテンポラリー・アーツ(ICA)、ロンドン、イギリス

## 助成金・受賞歴

- 2021 「第24回文化庁メディア芸術祭」アート部門 大賞  
「Artes Mundi 9」
- 2020 「第30回(2019年度)タカシマヤ美術賞」
- 2019 「Artes Mundi 9」ファイナリスト・ノミネート(2021年1月に受賞者発表)
- 2013 「フューチャー・ジェネレーション・アート・プライズ」観客賞
- 2012 「第15回アジア・アート・ビエンナーレ・バンガラデシュ2012」大賞
- 2005 文化庁新進芸術家海外研修制度
- 2001 「ベックス・フューチャーズ2(学生フィルム・ビデオ部門)」大賞

## レジデンシー

- 2018 MAC VAL、ヴァル＝ド＝マルヌ、フランス
- 2014 カディスト芸術財団、パリ、フランス
- 2012 サン・アート、ホーチミン、ベトナム
- 2010 アートスコープ、タイムラー・ファウンデーション・イン・ジャパン、ベルリン、ドイツ
- 2009 オープンサテライト、ベルビュー、アメリカ
- 2003 アーカスプロジェクト、茨城

## パブリックコレクション

### アーツ前橋

- 国立国際美術館
- 東京国立近代美術館
- 東京都現代美術館
- 豊田市美術館
- アムステルダム市立近代美術館(アムステルダム、オランダ)
- ヴァル＝ド＝マルヌ現代美術館(ヴァル＝ド＝マルヌ、フランス)
- カディスト芸術財団(パリ、フランス)
- クイーンズランド州立近代美術館(ブリスベン、オーストラリア)
- デ・ハレン・ハールレム(ハールレム、オランダ)
- テート・モダン(ロンドン、イギリス)
- ニューヨーク近代美術館(ニューヨーク、アメリカ)
- フォールリンデン美術館(ワッセナー、オランダ)
- ブルゴス現代美術館(ブルゴス、スペイン)
- ボイマンス・ヴァン・ペーニンゲン美術館(ロッテルダム、オランダ)
- FRACポワトゥー・シャラント(アングレーム、フランス)
- M+(香港)
- 国立台湾美術館(台湾)
- 蔚山美術館(韓国)